

# 「オオきくなくなつて帰つてきた」

## マリランドのオオサンショウウオ



水槽に入れられ、展示されたオオサンショウウオ（いずれも名張市で）

## 名張のセンターに引っ越し

3月末に営業を休止した志摩マリランド（志摩市）から、世界最大級の両生類で、国の特別天然記念物オオサンショウウオ3匹が13日、名張市赤目町長坂、日本サンショウウオセンターに引っ越した。いずれも建設中の川上ダム（伊賀市）の保護池で卵から孵化したもので、身体測定の後、展示用水槽に移され、来館者に公開された。（道津保）



恐る恐るオオサンショウウオに触る来館者（右）

## 結子さん不明24年「情報を」

松阪駅前 県警と署呼びかけ

明和町の高校生北山結子（当時17歳）が行方不明（当時17歳）が12人が情報提供を呼びかけ

てもらった。

県警は延べ4万7250人の捜査員を投入。184件の情報が寄せられたが、

今年0件（13日現在）という。松阪署の久田将樹・

事件指導官は「事件を風化

に小さなことでも構わないので、署に連絡をお願いしたい」と話した。

県警はツイッターや動画投稿サイト・ユーチューブ

でも情報提供を呼びかけて

いる。情報は同署（059

3匹は在来種とみられる雄。川上ダム整備に伴い捕獲され、同ダム建設所の保護池で一時保護されたオオサンショウウオから、2002、03年の秋に誕生した。マリランドには16年に引き取られた。営業休止に伴い、県文化財保護指導委員の紹介で生まれ故郷に近いセンターに譲渡された。

この日は、NPO法人赤目四十八滝溪谷保勝会職員で飼育担当の世良仁さん（31）らが、車で片道約2時間半かけて運んだ。環境省の環境カウンセラーで名張市職員の川内彬宏さん（35）らがセンターで、3匹の全長や尾の長さ、体重などを計測。来館者が興味深そうに見入ったりスマホのカメラを向けたりしていた。

測定の結果、最大だったのは03年生まれの全長97センチ、体重6・15キログラム。引き取

られた当時に比べてそれぞれ16・1センチ、2・63キログラムになっていた。最小は75センチ、4キログラム。

「生まれた年が確認できる、学術的にも貴重な個体が来たことをうれしく思う」と川内さん。立ち会った川上ダム建設所の松浦・環境課長は「元気で大きくなって帰ってきたのがうれしい」と顔をほころべた。これまでに保護池で化した27匹が各地の水産などに引き取られたという。

センターは現在、一時保護を含め50匹以上を飼育している。世良さんは「マリランドの人から『大切にしてください』声をかけられた。注意観察し、成長過程が分かるような展示をしたい」と話している。

